

『あてなるもの(上品なもの)』

カキ氷

清少納言は『枕草子』に上品なもの・雅なものとして、「水晶の数珠、藤の花、梅の花に雪がわずかに降った風情」など幾つかの事がらを記載しています。その中の一つに、「削り氷にあまづらを入れ、新しき金まりに入れたる」(良く冷えた新しい金属のお鉢に細かく削った氷片に甘葛を煎じた甘いシロップをかけたもの)と記しています。今から千年以上前の平安貴族たちは、夏にかき氷を食べ涼んでいたようです。

また、清少納言は、夏の暑い日、麻笥に氷水を張り両手を入れて涼んだとも記しています。

氷室

一九八八年のこととなりますが、奈良市の平城京の発掘現場で、藤原氏の陰謀により謀反の疑いをかけられ自害した長屋王の邸宅跡が発見されました。その現場からは、当時の貴族の食に関する記録や王家の運営状況などを記載した三万五千点の木簡が出土しました。その中には都祁(奈良市)に氷室があり、七、八月期に氷を十五回以上長屋王邸へ運んだことが記された木簡がありました。都祁地区は奈良市南東部の比較的標高の高い地域で、長屋王邸までは約四〇キロメートルの距離があります。夏の暑い時に重たい氷を急いで運ぶのはさぞ大変なこと

だったでしょう。また、木簡の中には大きさが直径約六、深さ約三、氷室の大きさと形状を記したものがありません。

氷が融けない氷室の工夫

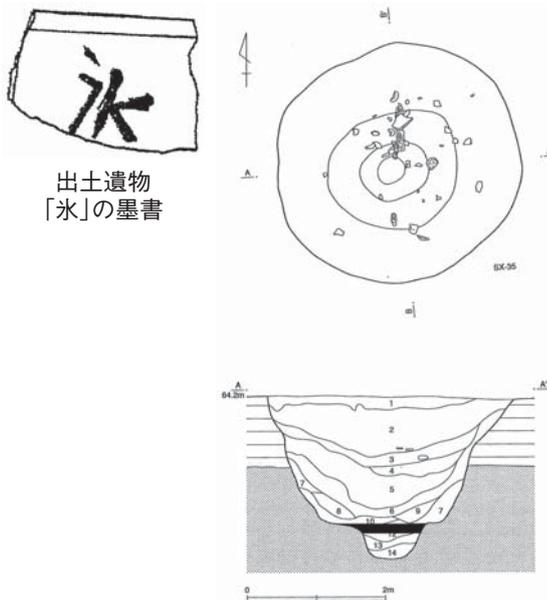
県内でも当市と壬生町・上三川町、宇都宮市南部の地域では、同様の氷室と想定される遺構が十数基発見されています。穴の平面は円形、規模は直径六、三など様々で穴の断面形は円錐形の下部にやや小さい円柱形の穴がある「ロート状」をしています。円錐形と円柱形の形状の変換点に「すのこ状」に太い木材を並べ、その上に稲わらやカヤなどの植物といっしょに水を詰めます。さらにその上に簡単な覆いの屋根をかいたようです。穴の中で溶け出した水は、ちょうどコーヒードリッパーのように「すのこ」下の円柱形の穴に落ちて排水され、溶け出した水に氷そのものが浸らないように工夫されました。

オンザロック?

北関東横断道路建設時には石橋下古山地区で八世紀前半頃の穴が三基、上三川高校周辺では八世紀後半の穴が三基、下野薬師寺歴史館建設時にも直径五、深さ約三の八世紀前半頃の穴一基が見つかっています。また、昨年度調査した雲雀台遺跡(南河内地区)でも直径五、深

下野市教育委員会 生涯学習文化課

さ約四の大きな穴が発見されました。当市周辺には、当時の公共施設である国府、郡衙、寺院などが複数存在しました。長屋王邸でも夏の宴席では酒に氷を浮かべたオンザロックを呑んでいたと想定されており、同様に下野国司や郡司などの役人、下野薬師寺・国分寺・尼寺の僧もかき氷のほかにオンザロックを呑んでいたかもしれません。



出土遺物「氷」の墨書

【図の説明】上三川高校付近で調査された氷室と想定された穴。上が平面図、下が断面図です。下の小さい穴の上(線の位置)に丸太を簀子状に並べ、その上に氷を入れたようです。九世紀の前半には使われなくなり、最後はゴミの廃棄用の穴として使われたようです。平面図に記載されているものはゴミとして捨てられたものです。